

基本目標Ⅲ | 希望と活力に満ちたまち

13 | 来てみたいまち 住んでみたいまち

施策範囲 移住・定住・観光・花のまちづくり・都市間交流

現状と課題

- 観光産業は、地域における消費拡大、新たな雇用創出など幅広い経済波及効果や交流人口拡大に大きく寄与し、農商工等が広く関わり、地域に活力や持続的発展をもたらす総合産業として、その重要性はますます高まっています。
また、平成26年度の外国人観光客の来道者数が約154万人に達するなど、取り巻く環境が大きく変化しています。
- 恵庭市においては、平成18年の「道と川の駅・花ロードえにわ」と「えこりん村」の開業により、観光産業が飛躍的に拡大しましたが、現在の観光施設の入込客数は、横ばい傾向です。
- これまで評価されてきた「花のまちづくり」に関しても、観光資源としては、「個人の庭」であるオープンガーデンに依存しており、花観光を拡大していくには、基盤がない状況です。また、この活動を担ってきた市民も高齢化が進んでおり、取組みの継続には、次世代の人材育成が必要です。
- また、札幌市、新千歳空港との交通利便性や、市内宿泊施設の規模から、いわゆる「通過型」であり、今後、更なる交流人口の増加や、市内周遊による滞在期間の延長を促進し、市内での消費活動を活性化させ、地域経済の発展を促す具体的な取組みが必要となっています。
- このことから、「恵庭市観光推進協議会」を設置し、今後、恵庭市が取り進めるべき観光振興施策の方向性・具体策について検討しています。今後は、各種事業の実施による、地域経済の活性化を図っていく必要があります。
- 恵庭市ではこれまで、宅地は開発とともに転入者が増え人口が増加してきました。市民の約90%は恵庭市が住みやすいと感じており、今後も住み続けたいまちをめざし、様々な面から移住・定住の取組みを進める必要があります。
- 都市間交流においては、姉妹都市である和木町とは、昭和54年以来、人的交流を中心に教育・文化・産業等で交流しています。また、近年では、平成25年から藤枝市と、食やスポーツに関する交流が進められ、平成26年2月には災害時相互応援協定が締結される等、今後も多分野での都市間交流が見込まれています。今後の課題として、時代の変化に伴った人的交流のあり方を検討する必要があります。

基本方針

- 移住・定住など、来てみたい住んでみたいまちをめざし、観光による来訪はもとより、花のまちや恵庭溪谷など魅力ある観光資源の情報発信の強化と、新たなブランド戦略や、シティプロモーションを充実するとともに、市民が今後も住み続けたいと思える魅力的なまちづくりを推進します。
- 多様な観光ニーズに対応するとともに、観光客の満足度を向上し、再訪率を高めるため、ホスピタリティの向上や、観光資源の魅力向上、着地型観光の推進、イベントの充実のほか、案内看板をはじめとした環境整備など受入体制の充実により、魅力ある観光地づくりに努めていきます。
- 先人を敬い、次世代へ恵庭市の歴史を継承するため、教育や文化、産業経済を通じて和木町との交流を進めていき、その交流分野を拡大していくことも視野に含めて推進していきます。

前期計画の重点施策

- 13-1 魅力ある恵庭らしい観光資源の活用・創出
- 13-2 移住・定住の促進

成果指標	数値目標		
	現状(平成26年度末)	目標(平成32年度)	備考
観光入込客数	133万人		
恵庭市外の人に恵庭の魅力を伝えることができると思う市民の割合(市民アンケート)	53%		
移住、定住支援サイトのアクセス数	4万3千アクセス		

持続的なまちづくりの取組み

- シティプロモーションの充実に向けた、情報発信の強化や、ブランド化の推進、広域観光の推進
- 魅力ある観光地づくりに向けた受入環境の整備、ホスピタリティの向上、観光資源の魅力向上、着地型観光の推進、イベントの充実
- 移住・定住の促進に向けた、各種事業・関係機関との連携
- 幅広い居住環境の整備
- 都市間交流の促進

わたしたちができること

- 市内外への恵庭の魅力発信(SNSなどの口コミ)などの、恵庭ブランド構築への協力(地域の魅力向上に向けて)
- 市民の手で作られた「花のまちづくり」や、各種イベントへの積極的な参加と賑わいの創出
- 観光客と地域住民との積極的な交流の促進とおもてなし意識の向上
- 移住者による恵庭の魅力発信
- 新規定住者との積極的な交流

個別計画

恵庭市観光振興計画 / 花のまちづくりプラン